

「終活」に対する取り組み方や意識に、男女差が・・・

自分の「終活」、漢字一字で表すと女性は「楽」「安」「愛」、男性は「無」「終」「完」

— 現在活動している人に聞く「終活実態調査」を実施 —

㈱くらしの友

巷では学生の就職活動が活況となりつつあるこの時期、冠婚葬祭互助会の㈱くらしの友(社長：伴良二、本社：東京都大田区西蒲田 8-3-1)では、もうひとつの“シューカツ”である「終活」について調査を実施しました。

「終活」は、人生の最期(エンディング)をより良くするため事前に準備する活動と言われるもので、2012年には「新語・流行語大賞」のトップテンに選ばれるなど、言葉として認知されるようになってきました。最近では世の中の関心事にもなっており、「終活」を行っているシニアも少なくないと言われますが、一体、どのような意識を持ち、どのようなことを行っているのでしょうか。

本調査は、現在「終活」を行っている50代から70代のシニア層を対象にその実態を探りましたが、各人各様の活動意識や取り組み姿勢が浮かび上がりました。また、「終活」に対する取り組み方や意識に、男女差があることも鮮明になりました。

< 目 次 >

- 自分の最期を意識し実際に行っている活動は、3人に1人が「自分の葬儀費用」の工面 (3P)
- 自分の最期を意識した活動の成果・・・託す相手は、「配偶者」と「子ども」がほとんど (4P)
- 自分の最期を意識した“想いを伝えたり、満たしたりする”活動に男女差 (5P)
- 「終活」の言葉は75%が認知。しかし、全体の半数以上が「意識せずに活動」 (6P)
- 「終活」を始めたキッカケは、半数近くが「高齢になったので」 (7P)
- 遺す人への配慮から・・・「終活」を行う理由は、約7割が「死後、遺族に迷惑を掛けたくないから」 (8P)
- 適齢よりも世の中の流れか？ 最近になって「終活」を始めた人が7割以上 (10P)
- 自分の「終活」・・・約8割が「家族に知らせる」 (10P)
- 「終活」の相談相手に男女差・・・男性は「妻」、女性は「子ども」、「友人」 (11P)
- 「終活」での楽しみに男女差。女性の方がややプラス志向 (12P)
- 「終活」は淡々と・・・約6割が「苦労や困ったことはない」 (13P)
- 自分の「終活」を漢字1字で表すと、“楽” (14P)

この件に関するお問い合わせは下記までお願いします。

㈱くらしの友 広報企画部 広報課

浅井、杉本

TEL 03-3735-5357